

共創言語進化学若手の会 第9回全体研究会 プログラム

開催場所：Zoom を用いた Web 開催

開催趣旨：5 年間の大総括

【2022 年 2 月 17 日(木)：13:00-18:00】

時間	タイトル	登壇者
13:00-13:10	開会・趣旨説明・質疑の方法・議論の方針	B01 阪口 幸駿
	第1部	
13:10-13:50	～招待講演～ ホモ・レギュラリスの憂鬱：規則に取りつかれた人類の見る幻想としての言語	外部 吉川 正人
13:50-14:00	休憩（およびバッファー）	
14:00-14:30	効用進化等の先行研究から意図概念についてわかること	C01 米納 弘渡
14:30-15:00	生成文法を科学モデルとしてみる	A01 中条 太聖
15:00-15:10	休憩	
15:10-15:40	ネオサピエンス：字義通りの意味だけ、という新しい形のコミュニケーション	B01 阪口 幸駿
15:40-16:10	コミュニケーションノイズの役割と偽りの多様性	C01 李 冠宏
16:10-16:20	休憩	
	第2部	
16:20-16:30	総括に関する事前アンケート結果の発表	B01 阪口 幸駿
16:30-17:00	若手の会の総括的な話	A01 中条 太聖 B01 外谷 弦太
17:00-18:00 (気が済むまで)	全体討議「5 年間の大総括と、若手の会の今後」	全員

* 第1部の発表時間は質疑応答含め、1人30分。吉川先生のみ40分。

詳細：

～招待講演～

<発表者>

吉川 正人

<タイトル>

ホモ・レギュラリスの憂鬱：規則に取りつかれた人類の見る幻想としての言語

<抄録>

ヒトは観察から規則を見出すことを得意とするが、その本性は、あらゆる現象の背後に「規則を見出してしまおう」、いわば「規則のヒト（ホモ・レギュラリス）」であり、実際に行っているのは「規則の発見」ではなく「このような規則が存在するはずだ」という推測に基づく「規則の生成」であると言える。本発表では、このような観点から言語を見つめてみるとどのようなことが言えるか、理論的な整理と検討を行う。

～一般発表～

<発表者>

米納 弘渡

<タイトル>

効用進化等の先行研究から意図概念についてわかること

<抄録>

本発表では、本領域の2本柱の1つである「意図共有」を理解する上で重要な「意図とはどんな概念か？」についての発表者の現時点での考えを、効用の進化等に関する先行研究を基に述べる。そして、意図形成能力の進化的発生が、人類の認知・コミュニケーションの両面の能力を高度に上昇させる上で非常に重要な役割を担ってきた可能性を提示する。

<発表者>

中条 太聖

<タイトル>

生成文法を科学モデルとしてみる

<抄録>

生成文法の言語理論が現在の言語学の自然科学、ひいては言語進化研究にとって大きな影響を持っていることは疑い得ない。一方で、理論の極めて高い形式性は、一見すると生物学や脳科学との関連性が低く、形式的ではあれど実際の言語現象の説明になっているのか疑わしいとする向きもある。本発表では生成文法をある種の科学モデルとしてみることで、理論によってもたらされる理解や科学的営為における意義を示すことを試みる。

<発表者>

阪口 幸駿

<タイトル>

ネオサピエンス：字義通りの意味だけ、という新しい形のコミュニケーション

<抄録>

私たちヒトのコミュニケーションでは他者との心的表象（思考）の共有に際し、字義通りの意味（コードモデル）と言外の意味（推論モデル）とをうまく融合させて適切に伝達することを試みている。この中で、コミュニケーションの送信者が持つ思考は外在化される過程でいくらかの多義性を含みながら表現されてしまう運命にあり、この多義性の一義化のために受信者は、主に文脈の手がかりを頼りとして解釈を実行することが要請される。しかしながら、果たして本当にこのような推論は不可欠であるのだろうか？また、「他者と意図的には共有しない」というコミュニケーション様式は果たして、社会的に許容されざる性格を持つと言い切つてよいのであろうか？加えて、高度にデジタル化された情報化社会では、コードモデルに適応した者がより社会的階層の上位に位置するという未来が待ち受けているとも考えられないだろうか？これらの点について、発表を通して意見交換の場としたい。

<発表者>

李 冠宏

<タイトル>

コミュニケーションノイズの役割と偽りの多様性

<抄録>

創造的な社会は、多様な価値観が必要である。コミュニケーションにおけるランダムノイズが価値観の多様性を維持する機能を持っていると考えられるが、そのメカニズムや条件は明らかでない。社会的調整の傾向の異なる社会におけるコミュニケーションに対してシミュレーションを行った結果、ノイズは意見陣営内の多様性の維持に役立つだけでなく、陣営間の独立性の維持にも役立つことがわかり、これは特に社会的調整の傾向が強い社会で重要であることがわかった。さらに、多様的一元社会と分断された社会とでは、多様性の度合いに実質的な差はないことが示唆された